

授業科目区分	専門科目	開設コース	社会系教科マネジメントコース
授業科目名 (英 文 名)	現代社会の課題とその教材化 (Issues of contemporary society as teaching materials)		
単 位	2単位	担当教員	森 秀樹 森田 猛 南埜 猛
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	後期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>新学習指導要領は情報化やグローバル化といった社会の構造変化への対応をうたっているが、これらの社会変容は、これまでの学校教育が想定してきた社会観や人間像に変容をせまるものでもある。これからの社会系教科はこのような状況を踏まえた上で構想されねばならない。そのため、この授業は、以下の達成目標を設定し、これからの社会系教科を創出できる実践力を身につけることができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会系教科の目標、科目の内容編成、カリキュラムの基本原理について理解している。 2. 社会の構造変化について理解するとともに、それに関わる社会諸科学の研究動向について理解し、教材研究に活用できる。 3. 上記社会諸科学の知見を活用した授業設計を行うことができる。 		
授業の内容・計画	第1回	[オムニバス] オリエンテーション (担当: 森) 新学習指導要領を紹介しつつ、この講義の目標と方法について説明する。	
	第2回	現代社会の諸相 (1) (担当: 南埜) 世界三大移民のひとつであるインド系 (南アジア) 移民をとりあげ、その歴史的展開ならびに、今日の実態と受け入れ地域での対応について考察する。	
	第3回	現代社会の諸相 (2) (担当: 南埜) 今日の地域の開発において、持続可能な (Sustainable) 観点が注目されている。教育においても、その点に依拠したESDが提唱されている。持続可能な開発についての歴史的経緯と水利やまちづくりなどを例にその取り組みについて考察する。	
	第4回	歴史学と気候変動 (1) (担当: 森田) 短期的な政治的事件ではなく、中長期的に持続する構造を重視した20世紀以降の歴史学の動向を紹介する。とくに長期的な気候変動の歴史への影響について、十字軍運動を題材に考察する。	
	第5回	歴史学と気候変動 (2) (担当: 森田) 地球規模での気候変動が、歴史に与えた影響について、17世紀危機を題材に考察する。	
	第6回	歴史と環境問題 (1) (担当: 森田) 人間環境の変化という観点から、世界史の諸問題を再考する。工業化の歴史的前提とされる、イギリスの農業革命を題材に、環境変化の多様な意味について検討する。	
	第7回	歴史と環境問題 (2) (担当: 森田) 工業化の世界規模での展開のなかで、いち早く自然環境と歴史的環境の保護に目を向けた、イギリスのナショナル・トラスト運動を題材に、工業化社会における環境問題について検討する。	

第8回	歴史とジェンダー（担当：森田） 近代ヨーロッパ史における女性の立場を、ジェンダー論、女性史研究の成果を手がかりに考察する。
第9回	現代社会の構造的変化（1）（担当：森） グローバル化は大規模な交流をもたらすとともに、様々な軋轢も生み出している。そこには、社会的相互関係が差異を産出するような現象も見られ、単に他者理解という仕方では解決できない問題も発生している。グローバル化社会において求められる社会の見方について考察する。
第10回	新しい社会的課題の教材化（1）（担当：森） 前時の学修に基づき、グローバル化時代におけるリテラシーを学習できる授業を構想し、教材化について学ぶ。
第11回	現代社会の構造的変化（2）（担当：森） 情報化は産業構造を大きく変容させ、人々の暮らしに大きな変化をもたらした。これまで教科書にあまりとりあげられてこなかった情報産業について、従来の産業と対比しつつ、概観するとともに、情報化社会において求められる知識と技能について考察する。
第12回	新しい社会的課題の教材化（2）（担当：森） 前時の学修に基づき、情報化時代におけるリテラシーを学習できる授業を構想し、教材化について学ぶ。
第13回	現代社会の構造的変化（3）（担当：森） 今日、民主主義の概念はゆらいでいる。また、社会系教科においてもちいられる「社会認識に基づく合理的意思決定」、「主権者教育」といった概念は主体性という概念を前提としているが、認知科学、行動経済学などの成果はこの概念を再検討することを求めている。現代社会における主体性のあり方について考察する。
第14回	新しい社会的課題の教材化（3）（担当：森） 前時の学修に基づき、現代社会における人間像の変容とその対応について学習できる授業を構想し、教材化について学ぶ。
第15回	まとめ（担当：森） ワークショップ形式で受講生が修得できたこと、今後の課題となることを明確にする。
成績評価の方法・観点等	<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業レポートの提出（40%）ならびに授業案の作成・発表（40%）に、授業への参加や貢献を加味して（20%）、総合的に評価する。</p> <p>成績評価の観点</p> <p>授業レポートについては、学修内容に関する理解と各自による気づきを評価する。</p> <p>授業案については、授業目標に即して、適切に構成されているかどうかを評価する。</p> <p>授業への参加によって全員の学びを促進できるような貢献をおこなっているかを評価する。</p>
テキスト・教材・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領』文部科学省HP</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』文部科学省HP</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』文部科学省HP</p> <p>【参考書等】</p> <p>参考図書などは適宜指示する。</p>
事前事後学修	事前に上記テキストに目を通しておき、事後は指示された資料を学習するとともに、授業レポート並びに授業案を作成すること。（全60時間程度）
その他	

授業科目区分	専門科目	開設コース	社会系教科マネジメントコース
授業科目名 (英 文 名)	社会系教科の授業デザインの理論と方法 (1) (Theory and method of lesson design in social studies (1))		
単 位	2単位	担当教員	南 埜 猛 吉水 裕也 阪上 弘彬
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	社会系教科の目標は、社会認識の形成を通して、市民的資質を育成することである。本科目では、社会系教科における現代的な教育課題や育てる児童生徒像に照らした学習指導の内容・方法に関する理論および方法・技能、また、習得した理論や技能等を用いた効果的な授業デザインができることを目標とする。		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーション、社会系教科（地理）の授業構成論（1） (担当：吉水・南埜・阪上) 本授業では、受講者全員を知識構築共同体の一員と位置づける。社会系教科における現代的な課題を共有したうえで、その解決のために様々な理論的実践的検討を行うことを確認する。 本時では、社会系教科で育成する資質・能力とは何かに関して議論したうえで、知識論や探究型社会科授業の基本原則を紹介し、その特質と課題を考察する。	
	第2回	社会系教科（地理）の授業構成論（2） (担当：吉水) 本時では、社会科地理的分野の授業記録を対象に、知識論を枠組みとした授業を構成する学習内容の分析演習を行う。	
	第3回	社会系教科（地理）の授業構成論（3） (担当：吉水) 本時では、社会系教科で育成する資質・能力と関連した価値探究型授業の基本原則の事例を紹介し、その特質と課題を考察する。	
	第4回	社会系教科（地理）の授業構成論（4） (担当：吉水) 本時では、社会系教科で育成する資質・能力を見取る学習評価に関連して、評価問題やパフォーマンス課題の事例を紹介し、それらを用いて評価の妥当性を高めるための演習を行う。	
	第5回	社会系教科の内容論（地理）（1） (担当：南埜) 本時では、系統地理のアプローチによる地域理解の方法について紹介し、その小・中・高校での授業への適用について考察する。	
	第6回	社会系教科の内容論（地理）（2） (担当：南埜) 本時では、地誌のアプローチによる地域理解の方法について紹介し、その小・中・高校での授業への適用について考察する。	

第7回	<p>社会系教科の内容論（地理）（3） （担当：南埜） 本時では、分布・地域・地域構造・景観といった地理概念と気候・人口・面積・産業における地理的基準について考察する。</p>
第8回	<p>社会系教科の内容論（地理）（4） （担当：南埜） 本時では、地理学の基本ツールである地図についての理解を図り、その学習と教材開発の方法について考察する。</p>
第9回	<p>社会系教科におけるICT活用論（1） （担当：南埜） 本時では、ICTリテラシーならびにGIS（地理情報システム）の基礎を紹介し、学校教育・授業への適用の可能性について考察する。</p>
第10回	<p>社会系教科におけるICT活用論（2） （担当：南埜） 本時では、GISを用いた授業開発の方法について考察する。</p>
第11回	<p>社会系教科（地理）の教材分析論（1） （担当：阪上） 本時では、教材分析の際に必要な分析枠組みの構築方法について考察する。</p>
第12回	<p>社会系教科（地理）の教材分析論（2） （担当：阪上） 本時では、前時に構築した分析枠組みを用いて外国の地理テキストブック等を題材にして、単元構成や内容構成を分析する。</p>
第13回	<p>社会系教科（地理）の授業デザイン演習（1） （担当：南埜・吉水・阪上） 社会系教科で育てる児童生徒像を踏まえ、受講生各自が1単元の単元指導計画および1時間分の学習指導案細案を作成する。</p>
第14回	<p>社会系教科（地理）の授業デザイン演習（2） （担当：南埜・吉水・阪上） 社会系教科で育てる児童生徒像を踏まえ、受講生各自が1単元の単元指導計画および1時間分の学習指導案細案を作成する。</p>
第15回	<p>社会系教科（地理）の授業デザイン演習（3） （担当：南埜・吉水・阪上） 社会系教科で育てる児童生徒像を踏まえ、受講生各自が1単元の単元指導計画および1時間分の学習指導案細案を作成する。</p>

<p>成績評価の方法・観点等</p>	<p>【学生に対する評価】 本科目では、受講者を知識構築共同体の一員と捉えている。そのため、知識構築のための議論参加やリフレクションを重視する。成績評価は、授業への参加度（40%）、課題レポート（ポートフォリオを含む）（60%）により行う。</p> <p>【成績評価の観点】 課題レポートの評価では、学修内容に関する基礎的な理解、論述の論理性を評価の観点とする。授業への参加度の評価では、受講生は知識構築共同体の一員という意識を持ち、授業での様々な議論に参加しているかということを観点とする。 資料の読解と整理、学習指導案収集、学習指導案の分析結果の整理、学習指導案の作成、課題整理レポートの作成など、毎時間課題が要求される。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会系教科における授業構成理論の基本的な原理を理解している。 ○社会系教科の内容構成の背景となる地理学の基本的な内容を理解している。 ○学習指導案が設定された分析フレームワークを用いて行われている。 ○明らかになった課題を克服する手だてを含んだ学習指導案を開発している。
<p>テキスト・教材・参考書等</p>	<p>【テキスト】 授業中に適宜資料を配付する。</p> <p>【参考書等】 吉水裕也編著（2018）『本当は地理が苦手な先生のための中学校社会科地理的分野の授業デザイン&実践プラン』明治図書 上野和彦・椿真智子・中村康子編著（2015）『地理学概論（第2版）』朝倉書店</p>
<p>事前事後学修</p>	<p>本授業では、自学自習のもと配付する資料や参考書等により学びを深めるとともに、教員から指示される課題レポートについてはすべて作成し対応することが求められる。 関係テキスト・参考書を用いた予習・復習45時間、学習指導案の作成を含めた授業づくりに15時間をあてること。</p>
<p>その他</p>	<p>2020年度の授業はすべてオンラインで実施します。授業はパターン3（チームズ）とパターン2（ズーム）を組み合わせで配信し、課題はパターン1（ライブキャンパス）で提出してもらいます。また、必要に応じてその他の方法でも適宜対応します。</p>

授業科目区分	専門科目	開設コース	社会系教科マネジメントコース
授業科目名 (英 文 名)	社会系教科の授業デザインの理論と方法 (2) (Theory and method of lesson design in social studies (2))		
単 位	2単位	担当教員	森田 猛 原田 誠司 山内 敏男
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>○日本と外国の歴史研究の成果をふまえた授業デザインと学習指導がおこなうことができるようになること。</p> <p>社会系教育の目的として、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことがあげられる。そのような社会系教育にたずさわる教員は、日本および外国の歴史に対する理解を深めることが不可欠である。本授業では、日本と外国の歴史に対する近年の研究成果を学びつつ、それを元にした授業デザインと学習指導のあり方を議論し、授業のねらいに即した授業デザインを学ぶ。</p>		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーション、学習指導班分け、指導案作成法 (担当：山内・原田・森田)	
	第2回	日本史 古代から中世への以降と荘園制 (担当：原田) 日本史の中で荘園制の理解は簡単ではない。私領の概念及び、寄進と立荘の意味を深く掘り下げることによって、深い理解に導く。	
	第3回	日本史 武士の出現と鎌倉幕府の成立 (担当：原田) 武士の基本的概念を明確にし、鎌倉幕府成立の意義を明らかにする。	
	第4回	日本史 中世社会と御成敗式目 (担当：原田) 御成敗式目の各条文は、中世社会を理解するのに恰好の教材となり得るのだが、丁寧に触れられることは少ない。いくつかの条文から、中世社会の様相を考える。	
	第5回	日本史 中世の百姓と近世の百姓 (担当：原田) 中世社会における百姓と近世社会における百姓との共通点と相違点を考える。	
	第6回	日本史 惣と村 (担当：原田) 中世社会における惣と近世社会における村との共通点と相違点を考える。	
	第7回	日本史 太閤検地の歴史的意義 (担当：原田) あらゆる意味で、中世社会を終焉させ、近世社会に転換させたのは太閤検地である。その歴史的意義を多角的に述べる。	
	第8回	外国史 ボストン茶会事件とイギリス商業革命 (担当：森田) アメリカ独立戦争の発端となったボストン茶会事件をとりあげ、世界商品としての「紅茶」を手がかりに、16世紀から18世紀の世界を概観する。	
	第9回	外国史 近代イギリスの指導者ジェントルマンと世界帝国 (担当：森田) イギリス近代特有の支配層ジェントルマンに焦点を当て、イギリスの世界帝国建設を社会史的に理解する。	

第10回	外国史 イギリス産業革命の歴史的前提 (担当: 森田) 18世紀以降の世界に大きな影響を与えた産業革命を, その歴史的前提に着目して, 歴史的な理解を深める。
第11回	外国史 近代ドイツと歴史学界 (担当: 森田) 近代歴史学の基盤を形成し, 日本の近代歴史学にも影響を与えたドイツ歴史学界の動向を, 19世紀当時の国家・社会との関係から理解する。
第12回	外国史 近代ドイツとアジア (担当: 森田) 植民地獲得に慎重であったビスマルク時代(1871年-1890年)を経て, ヴィルヘルム時代(1890年-1918年)にアジア地域に進出したドイツ。そのドイツとの関連から, 半植民地化の危機にさらされていた東アジアの諸相を理解する。
第13回	構想する社会科授業の提案とその改善 (担当: 山内・森田) 任意の内容に基づいて, 単元目標, 単元構想を持ち寄り, 検討する。
第14回	日本史の授業デザイン 学習指導案の発表, コメント (担当: 山内・原田) 立案した授業について概要を発表し, 討議する。
第15回	外国史の授業デザイン 学習指導案の発表, コメント (担当: 山内・森田) 立案した授業について概要を発表し, 討議する。
成績評価の方法・観点等	授業のテーマ・到達目標を踏まえて, 次のように評価する。 教材研究報告・学習指導案 (30%) 授業への取り組み状況・模擬授業の内容 (70%)
テキスト・教材・参考書等	【テキスト】 文部科学省 (2017) 『中学校学習指導要領解説社会編』 東洋館出版社 文部科学省 (2018) 『高等学校学習指導要領解説地歴編』 文部科学省HP 【参考書等】 教室で指示する
事前事後学修	事前に上記テキストに目を通しておき, 事後は指示された資料を学習するとともに, 教材研究報告・学習指導案を作成すること (60時間以上)。
その他	本年度はオンライン授業とする。第1回のオリエンテーション(指導案作成法等)は, 第12回のあとに行う。したがって, 授業の流れは, 第2回~第12回, 第1回, 第13回~第15回という順に変更となる。 上記第2回~第12回に相当する教科内容的部分は, 資料提示による非同期型授業で行う。具体的には, LiveCampusの「授業共有ファイル」にアップされた講義資料・課題を読んで各自調査研究し, 課題に応ずるレポートを提出する。さらにレポートに対する解説(「授業共有ファイル」にアップ)を読み, 気づいたことなど感想(「授業アンケート」)を提出する。このような一連のやり取りを, 日本史と外国史それぞれ1サイクルずつ行う(5月・6月)。 上記第1回, 第13回~第15回に相当する教科教育的部分は, Zoomを使用した同期型授業で行う。授業の提案, 討議についてはTV会議システムを用い, 議論についてはチャット機能を活用し, 授業の振り返りをレポート課題とする(7月)。 成績評価は, 教科内容的部分が, レポート等総合評価で, 60% (30%×2)。 教科教育的部分が, 授業参加状況とレポートの総合評価で, 40%とする。

授業科目区分	専門科目	開設コース	社会系教科マネジメントコース
授業科目名 (英 文 名)	社会系教科の授業デザインの理論と方法 (3) (Theory and method of lesson design in social studies (3))		
単 位	2単位	担当教員	小南 浩一 福田 喜彦 今出 和利
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	後期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>現行の『高等学校学習指導要領』に書かれた公民科の目標は「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」である。このことから公民系教科の教育にたずさわる教員は、現代社会についての理解を深めることが不可欠である。本授業は受講生に、現代社会の認識のために重要な内容についての理解を深めさせること、その上で、公民系教科の授業力を身に付けさせることを目的とする。本授業では以下の到達目標を設定する。</p> <p>1 公民系教科における現代社会の認識のために重要な内容について深く理解できる。</p> <p>2 公民系教科における現代社会の認識のために重要な内容について、適切な学習指導案を作成できる。</p>		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーション 教材研究・学習指導案作成・模擬授業のための班分け (担当: 小南)	
	第2回	政治 公民系教科・政治分野の授業分析 (担当: 福田)	
	第3回	日本政治史 (近現代) I (担当: 小南)	
	第4回	日本政治史 (戦後) II (担当: 小南)	
	第5回	教科書の記述をめぐって 「育鵬社」と「学び舎」を比較して (担当: 小南)	
	第6回	現代政治の課題—沖縄基地問題と原発 (担当: 小南)	
	第7回	公民系教科・政治分野の教材研究の報告 (担当: 小南)	
	第8回	公民系科目・政治分野の模擬授業の実践と分析 (担当: 福田・小南)	
	第9回	公民系教科・法学分野の授業分析 (担当: 福田)	
	第10回	社会生活における「法」の機能と役割 (担当: 今出)	

	第11回	近代立憲主義の誕生と日本国憲法成立史 (担当: 今出)
	第12回	民主主義と表現の自由－「優越的地位」の意義 (担当: 今出)
	第13回	日本国憲法と社会権－生存権をめぐる諸問題 (担当: 今出)
	第14回	裁判員制度の現在－評価と課題 (担当: 今出)
	第15回	公民系科目・経済分野の模擬授業の実践と分析 (担当: 福田・今出)
成績評価の方法・観点等	<p>成績評価は、次の視点で分析的に行う。</p> <p>教材研究報告の内容は適切であるか。(30%)</p> <p>学習指導案の内容は適切であるか。(70%)</p> <p>到達目標は以下のとおりである。</p> <p>1 公民系教科における現代社会の認識のために重要な内容について深く理解できる。</p> <p>2 公民系教科における現代社会の認識のために重要な内容について、適切な学習指導案を作成できる。</p>	
テキスト・教材・参考書等	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版 ・文部科学省 (2017) 『中学校学習指導要領解説社会編』文部科学省HP <p>【参考書等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に適宜資料を配付する。 	
事前事後学修	<p>事前学修：事前に配布する講義資料の内容を予習する。(全30時間)</p> <p>事後学修：講義の後に講義資料と講義ノートで講義内容を復習する。(全30時間)</p>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・受講対象者は社会系教科マネジメントコース所属の学生に限ります。 	

授業科目区分	専門科目	開設コース	社会系教科マネジメントコース
授業科目名 (英 文 名)	社会系教科におけるカリキュラムの変遷とマネジメントの実際 (Curriculum transition in social studies and Actuality of management)		
単 位	2単位	担当教員	福田 喜彦 吉水 裕也 山内 敏男
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	各校の社会系教科におけるカリキュラムの変遷及びデザイン（構想・開発）とその運用，その推進のための体制に関する理論及び方法・技術の習得を目標とする。教育現場における効果的なマネジメントと理論に基づく運用を学校現場で進めていく力量形成をめざす。		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーション・カリキュラムマネジメントの重要度（担当：山内，吉水，福田） 学校カリキュラムの事例を取り上げ，カリキュラム開発の背景や経緯・理論・特色・実践と評価等，現場での取り組みから課題を論究し，カリキュラム変遷に関する研究史の紹介と課題を指定する。（キーワード：研究発表，研究授業，教科固有のカリキュラム，教科横断的カリキュラム）	
	第2回	社会系教科のカリキュラムの歴史的変遷1（担当：福田） 社会系教科の成立までの経緯について論究する。 （キーワード：教授要目，国定教科書，大正自由教育）	
	第3回	社会系教科のカリキュラムの歴史的変遷2（担当：福田） 社会系教科の成立と展開について論究する。 （キーワード：学習指導要領，検定教科書，進歩主義教育）	
	第4回	社会系教科のカリキュラムの歴史的変遷3（担当：福田，山内） 社会系教科の近年における展開について論究し，分析，検討する任意のカリキュラムを抽出する。（キーワード：次期学習指導要領，デジタル教科書，構成主義教育）	
	第5回	地理的分野におけるカリキュラム論の研究史1（担当：吉水，山内） 地理教育カリキュラム論についてレポート発表を行い，特質と課題について論究する。 （キーワード：子どもの主体性，討論，論争問題）	
	第6回	地理的分野におけるカリキュラム論の研究史2（担当：吉水，山内） 地理教育カリキュラム論についてレポート発表を行い，特質と課題について論究する。 （キーワード：地理総合，地理探究，マルチスケール）	
	第7回	地理的分野におけるカリキュラム論の研究史3（担当：吉水，山内） 地理教育カリキュラム論についてレポート発表を行い，特質と課題について論究する。 （キーワード：地理的見方・考え方，防災学習，ESD学習）	
	第8回	歴史的分野におけるカリキュラム論の研究史1（担当：山内，福田） 歴史教育カリキュラム論についてレポート発表を行い，特質と課題について論究する。 （キーワード：歴史総合，日本史探究，世界史探究）	

	第9回	歴史的分野におけるカリキュラム論の研究史2 (担当: 山内, 福田) 歴史教育カリキュラム論についてレポート発表を行い, 特質と課題について論究する。 (キーワード: 概念探究, 絵画資料の活用, 歴史的思考)
	第10回	歴史的分野におけるカリキュラム論の研究史3 (担当: 山内, 福田) 歴史教育カリキュラム論についてレポート発表を行い, 特質と課題について論究する。 (キーワード: 解釈批判学習, 理論批判学習, 価値観形成学習)
	第11回	公民的分野におけるカリキュラム論の研究史1 (担当: 福田, 吉水) 公民教育カリキュラム論についてレポート発表を行い, 特質と課題について論究する。 (キーワード: 法関連教育, 法的思考, ツールミンモデル)
	第12回	公民的分野におけるカリキュラム論の研究史2 (担当: 福田, 吉水) 公民教育カリキュラム論についてレポート発表を行い, 特質と課題について論究する。 (キーワード: 主権者教育, 模擬投票学習, ディベート)
	第13回	公民的分野におけるカリキュラム論の研究史3 (担当: 福田, 吉水) 公民教育カリキュラム論についてレポート発表を行い, 特質と課題について論究する。 (キーワード: 租税教育, シュミレーション学習, ゲーミング理論)
	第14回	科学知にもとづくカリキュラム論の研究史 (担当: 山内) 社会を批判・吟味できる教育を中核としたカリキュラム論についてのレポート発表を行い, 特質と課題について論究する。(キーワード: 民主主義, 社会科学科)
	第15回	カリキュラムの改善とマネジメントの要点 (担当: 山内, 吉水, 福田) 批判的に分析, 検討した, 任意の社会科カリキュラムの改善案を提案し, 成果と課題を論究する。(キーワード: カリキュラムマネジメント, 研究推進)
成績評価の方法・観点等	<p><評価の方法> 課題レポート (カリキュラム論について A4横書き 様式自由: 35%), (カリキュラムの改善案について A4横書き 様式自由: 35%), 討論への参加状況・授業への貢献度 (30%)</p> <p><評価の観点> 社会系教科におけるカリキュラムの変遷及びデザイン (構想・開発) とその運用, その推進のための体制に関する理論及び方法・技術を習得し, 教育現場における効果的なマネジメントと理論に基づく運用を学校現場で進めていく力量を形成できたかを評価する。</p>	
テキスト・教材・参考書等	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当教員が授業に合わせて適宜指示します。 <p>【参考書等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 田村知子 (2014) 『カリキュラムマネジメントー学力向上へのアクションプランー』 デッカー・F・ウォーカー, ジョナス・F・ノルティス著 (2015) 『カリキュラムと目的 学校教育を考える』 玉川大学出版部 ジョン・デューイ著 (1998) 『学校と社会・子どもとカリキュラム』 講談社学術文庫 	
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> テキストや参考書などは事前に読んでおくこと。 授業後に示す課題のレポートを作成すること。 講義・演習科目... 1単位につき授業で15時間, 授業外で30時間 	

そ の 他

・社会系教科マネジメントコース以外の受講希望者は、事前に担当教員へご相談ください。
なお、受講人数により受講できない場合があります。

・本科目を旧課程の「社会系教科教育論Ⅱ」に読み替える場合は、社会系教育コース所属の大学院生で「社会系教科教育論Ⅰ」の履修済みの者に限ります。

授業科目区分	専門科目	開設コース	社会系教科マネジメントコース
授業科目名 (英 文 名)	社会系教科の授業研究 (Lesson study of social studies)		
単 位	2単位	担当教員	山内 敏男 福田 喜彦 南埜 猛 森田 猛 森 秀樹 阪上 弘彬
必修・選択の別	選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	後期		
授業のテーマ 及び到達目標	この科目では、社会系教科における授業評価と授業研究のあり方について論究する。その際、授業研究を教師教育の視点からどのように捉えればよいのかを考察する。そこで本科目では学校で行われている授業研究の実態を捉え、その課題を授業研究に関する理論を踏まえた上で指摘できるようにする。さらに、実際の社会科授業研究に参加する教師のキャリアステージに応じてコーディネートする事ができることをめざす。		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーション (担当：福田，吉水) 学校で行われている授業研究の実情と課題を取り上げ、なぜ授業研究が必要なのかを考察する。また、我が国での授業研究の方法を歴史的に振り返り、その成果と課題を整理する。 (キーワード：授業研究，量的研究法，質的研究法)	
	第2回	授業研究の理論 (担当：福田) 授業研究の理論について文献報告を演習形式で行う。 (キーワード：コルトハーヘン，ALACTモデル，教師教育)	
	第3回	授業研究の理論 (担当：福田) 授業研究の実践例について具体的に取り上げ、考察する。 (キーワード：ショーン，対話型模擬授業検討会)	
	第4回	社会系教科における授業研究会のあり方 (担当：福田) 学習評価の方法を踏まえ、社会系教科における授業研究のあり方を一旦確定する。 (キーワード：学習評価，授業評価，単元計画)	
	第5回	地理的内容に関する授業研究演習 (担当：南埜，阪上) 地理的内容に関する模擬授業を対象に授業研究を行い、実施した授業研究の理論と方法を批判的に検討する。 (キーワード：地理，授業研究，本時の目標，行為)	
	第6回	地理的内容に関する授業研究演習 (担当：南埜，阪上) 地理的内容に関する模擬授業を対象に改善した方法で授業研究を行い、実施した授業研究の理論と方法を批判的に検討する。 (キーワード：地理，授業研究，授業仮説，省察)	

第7回	<p>歴史的 content に関する授業研究演習 (担当：山内，森田) 歴史的 content に関する模擬授業を対象に授業研究を行い，実施した授業研究の理論と方法を批判的に検討する。 (キーワード：歴史，授業研究，行為，気づき)</p>
第8回	<p>歴史的 content に関する授業研究演習 (担当：山内，森田) 歴史的 content に関する模擬授業を対象に授業研究を行い，実施した授業研究の理論と方法を批判的に検討する。 (キーワード：歴史，授業研究，省察，本質への気づき)</p>
第9回	<p>公民的内容に関する授業研究演習 (担当：福田，森) 公民的内容に関する模擬授業を対象に授業研究を行い，実施した授業研究の理論と方法を批判的に検討する。 (キーワード：公民，授業研究，行為，選択肢の拡大)</p>
第10回	<p>公民的内容に関する授業研究演習 (担当：福田，森) 公民的内容に関する模擬授業を対象に授業研究を行い，実施した授業研究の理論と方法を批判的に検討する。 (キーワード：公民，授業研究，改善)</p>
第11回	<p>カリキュラム運用と教育実践活動の組織化 (担当：山内，福田) 授業研究会における指導・助言の課題と改善ポイントを明らかにし，検討会内容の共有化を図る。 (キーワード：授業研究会，受容，共感，誠実さ)</p>
第12回	<p>カリキュラム運用と教育実践活動の組織化 (担当：山内，福田) 能動的な研究を行うにあたっての阻害要因を明らかにし，ボトムアップ型研究推進の具体を論究する。 (キーワード：OJT，ブレインライティング)</p>
第13回	<p>社会系教科における事後検討会の実際とその改善 (担当：山内) これまでに行われてきた模擬授業をもとに，事後検討会を企画・立案する。 (キーワード：ホワイトボードミーティング，授業仮説)</p>
第14回	<p>社会系教科における模擬事後検討会 (担当：山内，福田，森) 模擬授業をもとにした事後検討会を実践し，成果と課題について論究する。 (キーワード：ファシリテート，研究推進，教師教育)</p>
第15回	<p>社会系教科における模擬事後検討会 (担当：山内，福田，森) 模擬授業をもとにした事後検討会を実践し，成果と課題について論究する。 (キーワード：ファシリテート，研究推進，教師教育)</p>
成績評価の方法・観点等	<p>【成績評価の方法・評価項目・観点等】 課題レポート (各担当より提示される内容についてのレポート：60%)， 模擬授業検討会，討論への参加状況・授業への貢献度 (40%) 【到達目標】 ○学校で行われている授業研究の実態について知り，その課題を指摘できる。 ○授業研究の理論について，具体的な例をあげて説明できる。 ○授業研究の課題を踏まえ，実際に授業研究をコーディネートすることができる。 ○授業研究を教師教育のレベルでどのように位置づければ良いか説明できる。</p>

<p>テキスト・教材・参考書等</p>	<p>【テキスト】 コルトハーヘン編著，武田信子監訳（2010）『教師教育学 理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社 授業中に適宜資料を配付する。</p> <p>【参考書等】 ちよんせいこ『学校が元気になるファシリテーター入門講座』解放出版社，2009年</p>
<p>事前事後学修</p>	<p>本授業では，模擬授業検討会で分析対象とする学習指導案等を事前に精読してくる必要がある。そのため事前学習が重要となる。</p>
<p>その他</p>	<p>第1～第4回 ※2020年度の授業はすべてオンラインで実施します。授業はTeamsにて講義，または講義等の動画を配信し，課題はLive Campusを用い，レポートを提出してもらいます。また，必要に応じてその他の方法でも適宜対応します。 ※テキストは以下のものを使用して今年度は授業します。受講生には山内先生から直接購入して頂く予定です。 https://www.kazamashobo.co.jp/products/detail.php?product_id=2307</p> <p>第7～8，11～15回については，対面型授業（教育言語社会棟718室）を予定していますが，諸般の事情により変更する可能性があります（Teamsにてお知らせします）。</p>

授業科目区分	専門科目	開設コース	社会系教科マネジメントコース
授業科目名 (英 文 名)	社会系教科教育実践研究 (Practical Research in social studies)		
単 位	8単位	担当教員	小南 浩一 南 埜 猛 原田 誠司 森田 猛 森 秀樹 吉水 裕也 山内 敏男 福田 喜彦 阪上 弘彬 米田 豊 今出 和利
必修・選択の別	必修		
授 業 の 方 法	演習		
標準履修年次	1年次～2年次		
開 講 学 期	通年		
授業のテーマ 及び到達目標	社会系教科マネジメントコースは、現代社会を「生きぬく力」を育成できる社会系教科のカリキュラムをマネジメントできる教員の育成を目指し、①児童・生徒が主体的に作り上げる授業による社会認識の形成、②これからの社会を生き抜く力をはぐくむ社会系教科の創造、③社会科学、人文科学、社会系教育学の土台を踏まえた授業づくり、④児童・生徒、学校、社会の状況に合わせての教育活動の改善という四つの課題を設定している。教科教育実践研究では、これらの課題に寄与するために、学生と教員、そして、学校現場が一体となって実践研究を行い、課題の解決をはかる。		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーション、担当各教員からのゼミ紹介、学生のグループ編成 (本授業はすべての回を全教員が担当する)	
	第2回	教科教育実践研究事例検討会 「本学教職大学院での先行研究事例から学ぶ」 (P2中間発表会に代替：Teamsにて実施)	
	第3回	教育実践研究に向けての課題意識の共有 (Teamsにて実施)	
	第4回	個別相談（課題意識などを個々に教員と相談） (随時受け付け)	
	第5回	グループ相談（課題意識などをグループ単位で教員と相談） (ゼミナールにて実施)	
	第6回	教育実践研究の考え方 (ゼミナールにて実施)	
	第7回	実習、実習校訪問に関する説明、実習の紹介 (P2中間発表会開催時に代替：Teamsにて実施)	
	第8回	文献資料の読み方（1）：文献の収集・整理、著作権について (ゼミナールにて実施)	
	第9回	文献資料の読み方（2）：文献資料の活用方法 (ゼミナールにて実施)	
	第10回	教育実践研究における文章の書き方：プレゼンテーションソフトの活用方法 (対面にて実施)	
	第11回	中間発表会Ⅰに向けて（実習の準備、研究の準備、要旨の様式、論理展開のポイント、到達目標など）（対面にて実施）	
	第12回	研究課題の設定 (ゼミナールにて実施)	

	第13回	研究課題の発表に向けての先行研究の調査 (ゼミナールにて実施)
	第14回	研究課題の発表の作成 (ゼミナールにて実施)
	第15回	まとめと振り返り (中間発表会を対面にて実施)
成績評価の方法・観点等		<p>【成績評価の方法】 本科目の学びのプロセスが、学校現場等における実習の中に位置づけられ、設定した実践課題の解決に寄与しているか、さらに教育実践研究報告書の内容に十分反映されているかを総合して評価する。</p> <p>【到達目標】 ① 実践課題を「学びのプロセス」に位置づけ研究を進めることができる。 ② 「学びのプロセス」を通して実践課題の解決能力を身につけることができる。 ③ 教育実践研究報告書の内容が研究過程を反映したものになっている。</p>
テキスト・教材・参考書等		<p>【テキスト】 適宜、必要に応じて配付。</p> <p>【参考書等】 草原和博・溝口和宏・桑原敏典編著 (2015) 『社会科教育学研究法ハンドブック』明治図書 全国社会科教育学会編 (2011) 『社会科教育実践ハンドブック』明治図書 全国社会科教育学会編 (2015) 『新 社会科授業づくりハンドブック 小学校編』『同 中学校編』明治図書</p>
事前事後学修		<p>事前学習：事前に各自の研究テーマについて用意しておくこと (全60時間)。</p> <p>事後学習：研究課題に関連したレポートの作成 (全60時間)。</p>
その他		*以上の15回の授業を2年間で4サイクル受講する。